

書名	法隆寺と聖徳太子			著者名	東野 治之／著		
出版社	岩波書店	ISBN	978-4-00-061617-1	本体価格	¥2,700	発売	2023/12/1
内容	世界遺産・法隆寺は、かつて建立・再建年代をはじめ多くの点で論争的となってきた。その創建者・聖徳太子も、没後早くから神話化され、時代ごとに人物像が様々に変化してきた。一四〇〇年の歴史を重ねた今、最新の研究成果に基づいて確かに言えることは何か。飛鳥・奈良時代研究の第一人者が、その真実の姿を解き明かす。						

書名	飛鳥・藤原京と古代国家形成			著者名	相原 嘉之／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-04676-3	本体価格	¥10,000	発売	2023/12/4
内容	わが国における国家の始まりとはいつなのか。小治田宮をはじめとする王宮・王都のみならず、甘樫丘や大嘗宮などの王宮関連遺跡、飛鳥寺・高市大寺など古代寺院、八角墳や壁画古墳など古墳墓の構造変化についても追究。考古学の成果から古代国家形成のプロセスを読み解き、「日本国誕生」の過程を明らかにする。前著『古代飛鳥の都市構造』に続く論集。						

書名	行基と道鏡			著者名	根本誠二／著		
出版社	高志書院	ISBN	978-4-86215-242-8	本体価格	¥3,000	発売	2023/12/5
内容	善僧(高僧・名僧)の典型とされている行基は、なぜに善僧の代表格となったのか。悪僧の典型とされている道鏡は、なぜに悪僧の代表格となったのか。本書では、この二人の行い、軌跡、生涯などを比較検討しつつ、文化史的・宗教史的な見地からアプローチするために、良弁と『日本霊異記』の編者景戒、吉備真備の三人にも登場願ひ、行基が善僧で道鏡が悪僧であるとする所以を解明していく。						

書名	探訪 大和の古城			著者名	大和古文化研究会編		
出版社	青垣出版	ISBN	978-4-434-33039-1	本体価格	¥2,250	発売	2023/12/6
内容	奈良県内の古城72城を取り上げ、城郭遺構の現状、発掘結果のほか、それぞれの城にまつわる歴史や物語を紹介している。執筆は、各古城の歴史や現況をよく把握している各市町村の文化財担当者や元担当者ら11人が担当した。探訪案内メモも付けた。						

書名	平城京の役人たちと暮らし			著者名	小笠原 好彦／著			
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-08442-0	本体価格	¥2,300	発売	2023/12/19	
内容	奈良時代の都・平城京は、政治の舞台の平城宮を中心に一〇数万もの人々が暮らす場であった。有能な役人を養成する大学や後宮に勤める女性官人の姿や、役人の勤務評価や休暇の実態などはいかなるものだったのか。税金や物資の流通、治安警備、軍隊や騎馬、酒造り、祭祀、疫病流行などのトピックから都に暮らした人々の日常をいきいきと再現する。							

書名	新版 縄文聖地巡礼			著者名	坂本龍一、中沢新一／著			
出版社	イースト・プレス	ISBN	978-4-7816-2274-3	本体価格	¥2,200	発売	2023/12/19	
内容	以前から縄文文化に深い関心を寄せてきた音楽家の坂本龍一氏と、人類学者の中沢新一氏が、縄文の古層に眠る、わたしたちの精神の源泉に触れるため、聖地を巡り、語り合います。諏訪、若狭、敦賀、奈良、紀伊田辺、鹿児島、そして青森へ—— 社会的な状況が大きく変化している現在、これからのヴィジョンを見つけるために、ふたりが人間の心の始まり「縄文」へと潜っていきます。							

書名	四神の旗			著者名	馳星周／著			
出版社	中央公論新社	ISBN	978-4-12-207458-3	本体価格	¥860	発売	2023/12/21	
内容	謀略に次ぐ謀略！有力皇族の誅殺、忍び寄る疫病の影——。藤原家の四子がこの国にもたらしたのは、栄光か、破滅か？直木賞作家にしてノール小説の旗手が、古代史上最大の闇に迫る衝撃作。藤原武智麻呂、房前、宇合、麻呂の四兄弟は、父・不比等の意志を受け継ぎ、この国を掌中に収めるため力を合わせる。だが政の中枢には、不比等が唯一畏れた男、長屋王が君臨していた。皇族と藤原家。それぞれの野心がぶつかり合い、謀略が交錯するとき、古代史上最大の闇が浮かび上がる——。							

書名	万の言の葉の歌			著者名	下村 敏博／著			
出版社	鳥影社	ISBN	978-4-86782-031-5	本体価格	¥2,000	発売	2023/12/25	
内容	万葉集の世界に想いを馳せ、歌ってみよう！ 天皇から庶民までの和歌を集めた日本人の心のふるさと「万葉集」。その和歌に楽曲をつけること早10年、著者のライフワークと言える全36曲の楽譜を掲載しました。現代に甦る、古代の息吹を味わう試み。独唱、合唱、合奏等のコンサートにもすぐ使えます。							